

2025年度 学校推薦型選抜(公募制) 入学試験問題

(80分)

基礎能力 英語・選択(数学・国語) - 3

注意事項

1. 指示がある前に問題冊子に触れてはいけません。解答用紙への記入については、後ほど説明があるので、それまでこの注意事項を読んでください。解答上の注意は、各科目の最初のページに記載してあるので、試験開始の合図後、よく読んで解答してください。
2. 解答は、黒鉛筆で記入してください。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の①～③の記入欄があるので、監督者の指示に従いそれぞれ正しく記入し、マークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

① 受験番号欄

受験番号(数字部分のみ)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。
記入方法については、下の記入例を参照してください。

受 験 番 号 欄						
番 号 欄	1	2	2	0	0	2
マ ー ク 欄	○ ● ②	○ ① ●	○ ① ●	● ① ②	● ① ②	○ ① ●

② 氏名欄

氏名・フリガナを記入してください。

③ 解答科目欄

解答する科目名の下の○にマークしてください。無マークまたは両科目にマークされている場合は0点となります。なお試験問題を見てから解答する科目を決める場合は、試験開始後でもかまいません。

4. 科目、ページ及び選択方法は、下表のとおりです。

科 目		ペ ー ジ	選 択 方 法
英	語	左開き 1 ~ 9	・「英語」と「選択(数学または国語から1科目)」の2科目を解答すること。
選	数学	左開き 11 ~ 15	
択	国語	右開き 1 ~ 17	

5. 問題の文中や設問の の中の記号は重複を示します。
6. 試験中に問題冊子の印刷の汚れ、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、無言のまま手を挙げて監督者に知らせてください。
7. この問題冊子は、どのページも切り離してはいけません。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

英語

解答上の注意

解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。

例えば、問題 **I** の、解答欄 **ア** と表示のある問題に対して、「①」と解答する場合は、次の(例)のように、問題番号 **I**、解答欄 **ア** の①にマークしてください。

(例)

英語

I	英語 I 解答欄										
	-	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ア	(-)	(0)	(●)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
イ	(-)	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
ウ	(-)	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
エ	(-)	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
オ	(-)	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)

英 語 - 3

解答欄は I (解答欄 I) ~ II (解答欄 II)

I 次の英文を読んで、後の設問に答えよ。*がついている語（句）は後に注がある。

解答欄は 英語 I の ア ~ ス

本問題に使用した著作物に関して、
著作権の関係上、掲載しておりま
せん。

本問題に使用した著作物に関して、
著作権の関係上、掲載しておりま
せん。

本問題に使用した著作物に関して、
著作権の関係上、掲載しておりま
せん。

本問題に使用した著作物に関して、
著作権の関係上、掲載しておりま
せん。

本問題に使用した著作物に関して、
著作権の関係上、掲載しておりま
せん。

Ⅱ 次の問1～3の設問に答えよ。

解答欄は 英語 Ⅱ の ア ～ ト

問1 次の(1)～(12)の各英文の空所に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④の中から1つずつ選べ。

(1) Few of the club members were in () of his proposal.

解答欄 ア

- ① front ② agree ③ favor ④ good

(2) We () to get a table at the popular restaurant.

解答欄 イ

- ① could ② managed ③ enabled ④ succeeded

(3) I apologized () breaking her bicycle.

解答欄 ウ

- ① her to ② her for ③ to her for ④ for her to

(4) Mr. Hara has two sons. One works for his company and () is in college.

解答欄 エ

- ① other ② another ③ the other ④ the others

(5) “I’ve never been to the USA.” “Neither ().”

解答欄 オ

- ① I do ② am I ③ I have ④ have I

(6) You cannot fish in this lake () you have a fishing license.

解答欄 カ

- ① unless ② without ③ in which ④ if not

(7) I'm () to vote, but I haven't had a chance yet.

解答欄

- ① enough old ② old enough ③ so old ④ too old

(8) She works at a hotel () the Green Hill Hotel.

解答欄

- ① to calling ② called ③ to call ④ is called

(9) I couldn't have found the shop () my smartphone.

解答欄

- ① although ② because ③ without ④ thanks

(10) I'm () working as a volunteer guide for foreign tourists.

解答欄

- ① interesting of ② interesting in
③ interested to ④ interested in

(11) I bought the book () our teacher told us to read.

解答欄

- ① that ② that was ③ what ④ in which

(12) This computer game is a lot () than you think.

解答欄

- ① easier ② more easy ③ of easy ④ more easily

問2 次の(1)(2)の空所に入れるのに最も適当な英文を、それぞれ下の①～④の中から1つずつ選べ。

(1) James: What do you want to do when you graduate from college?

Misa: ()

James: What's that?

Misa: I took half a year off from the university because of illness, so I still have a lot of classes to take in order to graduate.

解答欄 ス

- ① Not really, but I have several problems at the moment.
- ② Before I think about that, I'm worried about something else.
- ③ I want to work in medicine or nursing after graduation.
- ④ I have one thing in my mind that I really want to do in the future.

(2) Haruka: You look tired, Kelly. Is there anything wrong?

Kelly: Well, yes. ()

Haruka: Why not?

Kelly: There was loud noise from road repairs going on all night.

解答欄 セ

- ① I've been very sleepy since morning.
- ② I'm afraid I've caught the flu.
- ③ I couldn't sleep a wink last night.
- ④ I haven't had anything since last night.

数学

解答科目欄の記入について

(例)

解答科目欄	解答する科目を一つ選び、科目の下の○にマークしてください。	
	数 学	国 語
	●	○

解答上の注意

解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。

- 1 冊子の余白部分は計算用紙に使用してもかまいません。
- 2 問題の文中の ア、イウ などには、数字（0～9）または符号（-）が入り、ア、イ、ウ、…の一つ一つは、これらのいずれか一つに対応しています。それらを解答用紙のア、イ、ウ、…で示された解答欄にマークしてください。

(例1) 問題 I の アイウ に『-83』と解答する場合。

I	解 答 欄										I
	-	0	1	2	3	4	5	6	7	8	
ア	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
ウ	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○

- 3 分数形で解答する場合は、既約分数で答えてください。比で解答する場合も同様で、例えば4:6の場合には2:3と答えてください。また分数の符号は分子につけ、分母につけてはいけません。

(例2) 問題 II の $\frac{\text{エオ}}{\text{カ}}$ に『 $-\frac{4}{5}$ 』と解答する場合は、 $-\frac{4}{5}$ とし

ます。

II	解 答 欄										II
	-	0	1	2	3	4	5	6	7	8	
ア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オ	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○
カ	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○

- 4 根号を含む形で解答する場合は、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えてください。例えば、 $6\sqrt{2}$ と答えるところを、 $3\sqrt{8}$ のように答えてはいけません。

数 学 - 3

解答欄は **I** (解答欄 I) ~ **II** (解答欄 II)

解答欄は **I** の **ア** ~ **ハ**

I [A]

ある20人のクラスで数学のテストを2回実施した。小数表示されているものは、小数第3位を四捨五入したものであり、小数表示で答える場合も同様とする。

(1) 表1は、20人のうち出席番号が1, 3, 5, 7, 9の5人のテストの結果を表したものである。

表1 出席番号1, 3, 5, 7, 9の生徒のテスト結果

出席番号	1	3	5	7	9	平均点
1回目の点数	41	71	76	86	56	66
2回目の点数	45	69	76	93	a	69

$a =$ **アイ** であり、共分散は **ウエオ** である。また、2回目のテストについて20人全体の平均点が64点であるとき、表1にない15人の平均点は **カ** 点である。

カ に当てはまる最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。

- ① 62.33 ② 62.66 ③ 66.33 ④ 66.66

(2) 20人の2回のテストの平均点, 標準偏差, 共分散は表2のようにになっている。

このとき, 1回目と2回目のテストの相関係数は キ である。

キ に当てはまる最も適当なものを, 下の ①~⑨ のうちから一つ選べ。

表2 20人の平均点, 標準偏差, 共分散

	平均点	標準偏差	共分散
1回目	62	20.35	397.15
2回目	64	21.10	

- ① 0.1 ② 0.29 ③ 0.32 ④ 0.64 ⑤ 0.75
⑥ 0.83 ⑦ 0.92 ⑧ 0.98 ⑨ 1.00

- (3) 図1は、20人の2回のテストの結果を表した散布図である。1回目のテストの点数を横軸に、2回目のテストの点数を縦軸にとっている。

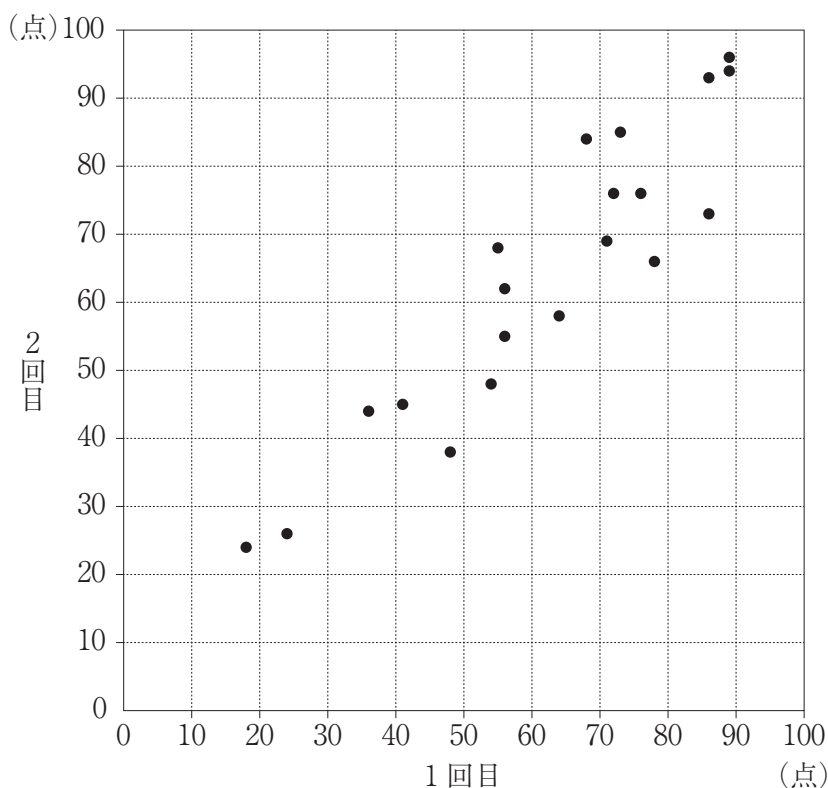


図1 1回目のテストの点数と2回目のテストの点数の散布図

次の①～⑤のうち、正しいことを述べているものは ク ケ である。

ただし、解答の順序は問わない。

- ① 20人のデータについて、1回目のテストの点数の範囲の方が、2回目のテストの点数の範囲より約5点大きい。
- ② 20人のデータについて、1回目と2回目のテストの平均点が70点以上の生徒は9人以上いる。
- ③ 20人のデータについて、2回目のテストの点数の第1四分位数の方が、1回目のテストの点数の第1四分位数より大きい。
- ④ 20人のデータについて、2回目のテストの点数が、1回目のテストの点数より10点以上上がった生徒は3人以上いる。
- ⑤ 20人のデータについて、1回目のテストの点数が50点以上60点未満の生徒の人数は全体の $\frac{1}{4}$ 以上いる。

I [B]

a, b は定数とし、 $a > 0$ とする。2次関数 $f(x) = x^2 - 4ax + b$ において、 $y = f(x)$ のグラフは点 $(2, 5)$ を通る。

(1) b を a を用いて表すと、 $b = \boxed{\text{コ}} a + \boxed{\text{サ}}$ である。

また、 $y = f(x)$ のグラフの頂点の座標は $(\boxed{\text{シ}} a, f(\boxed{\text{シ}} a))$ である。

(2) $y = f(x)$ のグラフが x 軸と共有点をもつような a の値の範囲は

$$a \geq \frac{\boxed{\text{ス}} + \sqrt{\boxed{\text{セ}}}}{\boxed{\text{ソ}}} \text{ である。}$$

(3) $a \leq x \leq a+2$ における $f(x)$ の最小値は

$0 < a < \boxed{\text{タ}}$ のとき $\boxed{\text{チ}}$ であり、 $a = \boxed{\text{タ}}$ のとき $\boxed{\text{ツ}}$ であり、

$\boxed{\text{タ}} < a$ のとき $\boxed{\text{テ}}$ である。

$a \leq x \leq a+2$ における $f(x)$ の最大値は

$0 < a < \boxed{\text{ト}}$ のとき $\boxed{\text{ナ}}$ であり、 $a = \boxed{\text{ト}}$ のとき $\boxed{\text{ニ}}$ であり、

$\boxed{\text{ト}} < a$ のとき $\boxed{\text{ヌ}}$ である。

$\boxed{\text{チ}}$ 、 $\boxed{\text{テ}}$ 、 $\boxed{\text{ナ}}$ 、 $\boxed{\text{ヌ}}$ には当てはまるものを、次の ①~④ のう

ちから一つずつ選べ。ただし、同じものを繰り返し選んでもよい。

① $f(a)$ ② $f(a+1)$ ③ $f(a+2)$ ④ $f(\boxed{\text{シ}} a)$

(4) $a \leq x \leq a+2$ における $f(x)$ の最大値と最小値の差が3であるとき

$$a = \sqrt{\boxed{\text{ネ}}}, \boxed{\text{ノ}} - \sqrt{\boxed{\text{ハ}}} \text{ である。}$$

Ⅱ

半径2, 中心 O_1 の円 C_1 がある。円 C_1 の円周上に点 O_2 をとり, 半径1, 中心 O_2 の円を C_2 とする。2円 C_1, C_2 の交点の1つを A とし, 2円 C_1, C_2 に接する直線のうち A に近い方の接線を ℓ とする。また, 接線 ℓ と2円 C_1, C_2 との接点をそれぞれ B, D とする。

(1) $\angle BO_1O_2 = \text{アイ}^\circ$ である。また, $BD = \sqrt{\text{ウ}}$ である。

(2) $\angle AO_1O_2 = \theta$ とすると, $\sin\theta = \frac{\sqrt{\text{エオ}}}{\text{カ}}$ である。

(3) 2直線 O_1O_2 と ℓ の交点を E とすると, $AE = \sqrt{\text{キ}}$ である。

また, $\triangle AO_1E$ の外接円の面積は $\frac{\text{クケ}}{\text{コ}}\pi$ である。

(4) (3) のとき, 直線 AE と円 C_2 の交点のうち A でない方を F とし, AF の中点を M とする。2直線 O_1A, O_2M の交点を G とすると, $O_1G = \text{サ}$,

$O_2G = \frac{\sqrt{\text{シス}}}{\text{セ}}$ である。

[数学 終わり]

国語

解答科目欄の記入について

(例)

解答科目欄	解答する科目を一つ選び、科目の下の○にマークしてください。	
	数 学	国 語
	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

解答上の注意

解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。

例えば、問題 **I** の、解答欄 **ア** と表示のある問題に対して、「①」と解答する場合は、次の(例)のように、問題番号 **I**、解答欄 **ア** の①にマークしてください。

(例)

I	解 答 欄 I										
	-	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ア	(-)	(0)	(●)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
イ	(-)	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
ウ	(-)	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
エ	(-)	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
オ	(-)	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)

国語 1 3

I

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

解答欄は

I

の

A

と

C

「知性」と「感性」をめぐる^(注1)カントの思考は、今日のわれわれの基本的な思考の枠組みを決定的に方向づけている。カントの最も重要な著作とあってよい『純粹理性批判』は、(1)人間の「認識」のプロセスを分析し、認識能力がどのようなどの範囲まで適用されるかを明らかにしようとしている。その際に重要なのは、カントが人間の認識の対象をあくまでも感覚によってとらえられるもの限定していることである。認識の出発点となるのは、われわれの世界のなかに存在する「物」であり、それが例えば視覚や聴覚あるいは触覚などの刺激となってわれわれの感覚を「触発」する。カントにとって、「物自体」がほんとうにそこに存在しているのかどうかは最終的に確認することはできない。しかし、その「物」に由来すると考えられる刺激が与えられていることは事実であり、われわれはそれによって I にそこに「物」があるのとらえている。その刺激（触発）はまず「感性 (Sinnlichkeit)」に働きかける。感性には「時間」と「空間」という二つの「純粹直観」の形式があり、刺激はこの二つの形式に従ってまず大きく枠組みを与えられる。さらに、この刺激内容は「悟性 (Verstand)」において二つの「カテゴリー」(量・質・様態・関係がそれぞれ三つに区分されている)のもとに整理され、最終的に「物」の認識にいたる。「物」の認識とは、人間の内部に生み出された像であり、その認識像が、外部の世界にある(と想定されている)「物自体」と一致するという保証はない。というよりも、くりかえしになるが、そもそも「物自体」がほんとうに存在しているかどうかはわからない。しかし、出発点となる刺激は存在し、それによって生み出された対象の認識も存在する。

こういったプロセスの前提となっているのは、人間の外部の世界(「物」が存在する世界)と人間の内部の世界(認識の機構)がはっきりと二分されていることである。そのとき、外の世界と内側の世界の界面となっているのが知覚器官である。「感性」はその界面に直結する機能として、感覚によってとらえられるものにかかわる領域として、その後も理解されてい

る。しかし、「悟性」によってとらえられるものも、もともとは感覚器官を通じて外部から与えられた刺激であり、外部の「物」の世界、つまり現象の世界にかかわっている。ちなみに、「悟性」という言葉は日常的には耳にすることのない言葉だが、日本の哲学の伝統のなかでカントの用いる *Verstand* の翻訳語として定着したものである。*Verstand* は、日常的な意味では、知的理解力・分別を表す言葉であり、『純粹理性批判』の比較的新しい翻訳でもこの言葉は「知性」と訳されている。

それはともかく、ここであらためて強調しておきたいのは、「知性」の対象が（イデアの世界にかかわるものではなく）この現象の世界のなかに存在する「物」に由来するものとなったということ、そしてそれにもなつて、「感性」と「知性」が、この同じ現象の世界をとらえる際の区分として機能するようになったということである。

感性と知性はさらに、認識のプロセスにおける二つの異なる領域であるだけでなく、⁽²⁾二つの異なる自律的な価値の領域を形成してゆく。現代のわれわれの一般的な感覚でもそうであるように、「感性」は、単に感覚的なもの、心で感じ取れるもの、あるいは感情にかかわるものを指すだけでなく、とりわけ芸術的な感覚、倫理的な感覚といった特別な価値の領域と結びついている。そして「知性」は、論理的思考・判断・知識の総体にかかわるだけでなく、なかでも学問的な領域と特別に強く結びついている。さらには、文学や思想もここに加わる。（ア）

「思想」という言葉によってここで意図しているのは、古来、大学という学問的制度のなかに組み入れられていた哲学だけでなく、例えば、芸術家が自らの考えを書物のかたちで表現したものでもある。同じ芸術にかかわるものであつても、絵画や音楽は一般的に「感性」の領域に位置づけられるのに対して、その芸術家の思想的テキストは多くの場合「知性」の領域にもちこまれて論議される。（イ）あるいは「作家」は、本来ならば言葉の芸術家といつてもよいはずで、「感性」の領域で語られてもおかしくないのだが、おそらくそれ以上に「知性」の領域にかかわると考えられることが多い。（ウ）

こういったことにも顕著に現れているように、「知性」の領域と結びついているのは、^(a)端的にいつて「言語」である。（エ）世界の認識にかかわるものうち、「知性」の領域で語られるのは言語化されたものである。「知性」の特権的領域といつてもよい学問の世界は、言語化のプロセスなくしては成り立たない。「感性」と同じく、世界の認識のためにはもともとと外界からの感覚的刺激が出発点となっている。しかし、その外部からの情報に対して記号的なエンコード／デコードとい

^(注3)

^(注4)

う言語のプロセスを介在させるがゆえに、「知性」の領域は、外界との界面である感覚器官における直接的刺激からそれだけ遠ざかってしまう。そして、言語というメディアによって可能になった世界の分節化・論理的思考・構造化といった特質によって、言語のなかでとらえられた世界の表象は、ますます外側の世界そのものから離れてゆくという事態も生じる。^(注5) マクルーハンが「グーテンベルクの銀河系」という言葉で言い表したものは、活版印刷というメディアの技術によって^(注6) その特質を際立たせることになった、言語化された西欧近代の「知性」のパラダイムだといってよいだろう。

それに対して、「感性」の領域、とりわけ「知覚 (aisthesis)」の学、あるいは「感性的認識 (cognitiosensitiva)」の学として位置づけられてゆくことになる美学 (Ästhetik / aesthetics)。⁽³⁾ つまり芸術の領域は、知覚器官で受け止めたままの (とわれわれが感じている) 像を対象とする。絵画は眼に見えているものにしたがって、新たな世界を像として構築し、音楽は耳に聞こえるかたちでの音と響きの構成像を作り上げる。われわれは一般的に伝統的な芸術作品を「メディア」とは呼ばない。しかし、これまで考察してきたように、外的世界の対象を複製・保存・伝達するための技術をメディアととらえるとすれば、伝統的な芸術もまた広い意味でのメディアの一つの形態である。そこには創造性という要素がきわめて強く前面に現れているため、「メディア」という言葉の一般的な意味から外れているような感覚をもってしまいが、「写真」や「レコード」という明示的に複製的な技術を思い浮かべざるなら、II を生み出すというメディアの特質を見とることができらるだろう。

近代以降、少なくとも一八世紀後半の西欧の思想的伝統を引き継ぐなかで、知性と感性という二つの領域の区分は、言語的思考に依拠する学問的領域と感性にもとづく芸術的領域という二つの自律的な価値の領域を、それぞれ制度として成り立たせてきた。そして、その制度のなかで二つの支配的なメディアの形式がそれぞれ展開していった。記号的メディア (言語的メディア) としての「書物」と、模倣的メディア (画像的メディア) としての「芸術作品」である。

現在のわれわれの社会で生じている特徴的なメディアの現象において何が起こっているかをとらえるためには、異なる表象のモードを^(b) 捨象した「メディア」という一元化された概念ではなく、⁽⁴⁾ 二つの異なる表象のモードのなかでのメディアの現象をとらえたほうがよい。例えば、異なる知覚や知的経験 (画像・音声・文字など) をデジタル情報として一元化し、そのことを前提にウェブとして張り巡らされたネットワークが地球を覆い尽くそうとしている環境は、模倣的メディアと記

号的メディアという二つの形式がある程度融合しつつある段階での共通のプラットフォームと見ることもできるだろう。しかし、ヴァーチャルリアリティ（いわゆるVR装置による経験に限られない）は、基本的に模倣的表象の圏内でのみ展開する技術である。それに対して「メディア」という包括的な概念を当てはめるとしても、そこで問題となるのは完全に模倣的メディアの特質なのである。

（山口裕之^{やまぐちひろゆき}『現代メディア哲学 複製技術論からヴァーチャルリアリティへ』講談社 出題の都合上、一部表記を改めた）

（注1） カント——一七二四～一八〇四年。ドイツの哲学者。

（注2） アイデア——プラトンが提唱した哲学的概念。知性によってしか認識できない個々の具体的事物の本質。

（注3） エンコード——情報を記号や暗号の配列に変換すること。

（注4） デコード——エンコードした情報を元に戻すこと。

（注5） マクルーハン——一九二一～一九八〇年。カナダの英文学者・文明批評家。

（注6） グーテンベルクの銀河系——マクルーハンの著作の題名。活版印刷技術の普及で大量の書物が出回ったことに

より人間の認識のあり方が変化し、視覚によって認識し、対象から距離を置く形になったと説いている。

問一 二重傍線部(a)・(b)の各語句の本文中での解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ
 選ぶ。

解答欄

ア・イ

(a) 端的にいつて

ア

- ① 正確にいつて
- ② 有り体にいつて
- ③ 簡潔にいつて
- ④ 大雑把にいつて
- ⑤ 詳細にいつて

(b) 捨象した

イ

- ① 置換した
- ② 合成した
- ③ 無視した
- ④ 修正した
- ⑤ 延長した

問二 空欄

I

II

に入る語として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選ぶ。

解答欄

ウ・エ

I

①

多面的

②

観念的

③

慢性的

④

微視的

⑤

経験的

II

①

知性的模倣物

②

創造的複製物

③

感覚的対応物

④

再帰的構造物

⑤

記号的代替物

問三 本文中に次の文を補うとき、最も適当な場所は本文中の(ア)～(エ)のうちどこか。次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄 **才**

そもそも、日常的な言葉の用法としては、「文学」は「芸術」に含めて理解されることが多い。

- ① (ア) ② (イ) ③ (ウ) ④ (エ)

問四 傍線部(1)「人間の『認識』のプロセスを分析」とあるが、その分析の内容の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄 **力**

- ① 人間の認識の対象を時間と空間に限定したうえで、感性と悟性という枠組みのなかに整理して「物自体」と対応させ、世界のなかに存在する「物」をとらえようとする分析。
- ② 人間の認識を感覚によってとらえられるかどうかで、感性と悟性という認識の枠組みのなかに整理して、認識像と世界のなかに存在する「物」との違いをとらえようとする分析。
- ③ 人間の認識の対象を人間の内部に生み出される像とし、それを認識したときの感覚と「物」との対応から、世界のなかに存在する「物自体」をとらえようとする分析。
- ④ 人間の認識の対象を感覚によってとらえられるもの限定し、その感覚を感性と悟性という枠組みのなかに整理して、世界のなかに存在する「物」をとらえようとする分析。

問五 傍線部(2)「二つの異なる自律的な価値の領域を形成してゆく」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄

キ

- ① 感性と知性が認識の対象とするものについて、知覚器官という境界を区切りとしてそれぞれの価値を判断する規範の体系が生まれ、学問的な領域が発展しているということ。
- ② 感性と知性による認識を区別することを通じて、それぞれに認識されるものの価値を判断する規範の体系が生まれ、芸術や倫理、学問に影響を与えているということ。
- ③ 感性と知性の感覚をもたらすものについて、それぞれの価値の判断にかかわる感情や芸術にかかわる領域と学問や文学・倫理にかかわる領域が分化しているということ。
- ④ 感性と知性によってとらえられるものについて、それぞれの特性に基づいて指向する価値の体系が生まれて、芸術や倫理の領域や学問的な領域に広がっているということ。

問六 傍線部③「その特質」の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄

ク

- ① 「知性」の領域は、世界の構成要素を構造的にとらえて論理的に理解しようとする過程で形成されるが、その過程で現実から乖離かひりすることを防ぐためにメディアの影響力を利用するという特質。
- ② 「知性」の領域は、感覚的刺激でとらえた世界の構造を言語化する過程で形成されるため、感覚的刺激でとらえられないものが除かれたものになっていくという特質。
- ③ 「知性」の領域は、外界からの感覚的刺激を出発点としながら、言語化というプロセスを介在させるために、「感性」がとらえた外側の世界と乖離したものになっていくという特質。
- ④ 「知性」の領域は、世界を感覚的刺激にたよらずに言語で明確化することによって、世界の構造を論理的に明らかにするもので、その過程はメディアの技術によって促進されるという特質。

問七

傍線部(4)「二つの異なる表象のモードのなかでのメディアの現象をとらえたほうがよい」とあるが、筆者はどのよう
に何を「とらえたほうがよい」と考えているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄

ケ

- ① 知性が導く記号的メディアと、感性が導く模倣的メディアの融合が可能になった現代においては、それぞれの表象の特性をふまえて「メディア」という概念をとらえ直すべきであると考えている。
- ② メディアを記号的メディアと模倣的メディアに分けて、それぞれのメディアで起きている現象の特質をとらえるにあたり、メディアの領域の特性を排除してとらえたほうがよいと考えている。
- ③ メディアを学問的領域と芸術的領域に分けて、それぞれのメディアで起きている現象の特質をとらえるにあたり、模倣的表象のなかの記号的要素を考慮してとらえたほうがよいと考えている。
- ④ メディアをデジタルによる模倣が可能か否かという区分で分けて、それぞれのメディアで起きている現象の特質をとらえるにあたり、メディアの領域の特性を考慮してとらえたほうがよいと考えている。

問八 本文の内容に合致するものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄

□コ

- ① カントの「悟性」は「知性」と訳されることがあることからわかるとおり、感覚的に心で感じとるものというよりは、論理的な思考判断などにかかわる概念に属するものといえる。
- ② 近代以降のメディアの発達のなかで、活版印刷の発明を契機に記号的メディアよりも模倣的メディアの方が支配的な存在となっていた。
- ③ 芸術家の思想についての言説は、言語によって記述されるものであるがゆえに、感性の領域に属するものとしてというよりも、知性の領域に属するものとして扱われてきた。
- ④ ヴァーチャルリアリティは模倣的メディアを通じて記号化した世界を増幅させる技術であり、デジタル情報のネットワークの高度化のなかで、二次的な感覚的刺激を提供するようになった。

II

次の各問に答えよ。

解答欄は

II

の

A

と

T

問一 次の a ～ e の傍線部にあてはまる漢字と同じ漢字を含むものを、各群の ① ～ ⑤ の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答欄

A

と

O

a 法廷でベンゴする

A

① 病院でブンベンする

② 図書館でベンキョウする

③ 友人にベンギを図る

④ 師のベントツに感謝する

⑤ 批判にコウベンする

b シツジツゴウケンに徹する

I

① ゴウチヨクな気性

② フゴウの仲間入りを果たす

③ ハンゴウで米を炊く

④ ゴウマンな態度を見せる

⑤ ゴウオンに顔をしかめる

c チュウスイエンになる

U

① チュウジツな友人を得る

② テンチュウが下る

③ ガイチユウを駆除する

④ データをチュウシュツする

⑤ 外国にチュウザイする

d 書家がキゴウした看板

工

① キガの対策のために寄付をする

② 対局のキフをたどる

③ 船のキテキが聞こえる

④ 実力をハツキする

⑤ 農民がイツキを起こす

e キをてらった意見

オ

① キジョウの空論に過ぎない

② キカガクテキな模様

③ カブキを見に行く

④ キグウにも知人に会う

⑤ 経営がキドウに乗る

問二 次の a ～ e の傍線部にあてはまる漢字を含む熟語として最も適当なものを、各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答欄

カ
ク
コ

a 鶉うの目たかかの目で探す

カ

- ① チュウオウとなる地点
- ② オウトツのない道がつづく
- ③ 拳でオウダする
- ④ オウヨウな態度でくつろぐ
- ⑤ 乗り物に酔ってオウトする

b すな嵐あが起おこる

キ

- ① ジャコウの残り香を感じる
- ② 水道のジャグチを閉める
- ③ ムジャキな笑顔を見せる
- ④ 争いをジャッキする
- ⑤ 庭のジャリを踏みしめる

c 一匹おおかみおを気取きる

ク

- ① ロウバイした姿をさらす
- ② 一族ロウトウで押しかける
- ③ ロウゴクのような部屋
- ④ 試合相手をチヨウロウする
- ⑤ 研究の成果をヒロウする

d 背後をおびやかす

ケ

① 金融キョウコウが起こる

② キョウジュンの姿勢を示す

③ キョウタンの声を上げる

④ キョウハク罪に問われる

⑤ キョウチヨウを見て憂う

e 材料をよくまぜる

コ

① コンスイ状態から目覚める

② コンヤクを明らかにする

③ コンナンを乗り越える

④ カコンを残す

⑤ 別人とコンドウする

問三 次のa～dのことわざ、慣用句、故事成語の空欄と同じ漢字があてはまる四字熟語を、後の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選べ。

a 木で

サ をくくる

b 泣きつ

シ に蜂

c **ス** 橋を叩いて渡る

d **セ** かぬ蛭が身を焦がす

① 羊頭 肉

⑤ 八 六臂

② 阿 叫喚

⑥ 虚虚 実

③ 漱 枕流

⑦ 鶏 狗盗

④ 漁 之利

⑧ 意気 沈

解答欄

サ
シ
セ

問四 次の a、b、c の空欄に身体の一部や動物を表す漢字一字を入れてできる慣用句の意味として最も適当なものを、各群の

①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答欄

ソ
チ

a の額

ソ

- ① 明るいこと
- ② 狭いこと
- ③ 早いこと
- ④ 賢いこと
- ⑤ 意外なこと

b を潰す

タ

- ① 名前を売りこむ
- ② 身元を隠す
- ③ 身分を明らかにする
- ④ 名誉を傷つける
- ⑤ 家名を守る

c を冷やす

チ

- ① 気持ちを落ち着かせる
- ② 気持ちを盛り上げる
- ③ 気持ちを切り替える
- ④ 気持ちを推し量る
- ⑤ 気持ちを押し殺す

問五 次の文章を読み、傍線部「一つの時代の形」の説明として最も適当なものを、後の①～⑤の中から一つ選べ。

解答欄

ツ

2010年代は、中東・北アフリカで相次いだ「アラブの春」と呼ばれる反政府運動によって幕開けし、これを発端にシリア内戦や、イスラム過激派組織「イスラム国」の台頭を招いた。アラブ地域では、戦火や過激派を逃れようと、数百万人単位の難民が欧州へとバルカン半島や地中海経由で殺到し、2010年代中盤の「欧州難民危機」と呼ばれる事態に発展した。

難民たちは、メルケル首相が受け入れを表明したドイツや英国など豊かな国を目指して北上し、ハンガリーが国境を閉鎖するなど通り道となった国々の反発を招いた。同じ時期にパリやEU本部のあるブリュッセルなどでイスラム過激派によるテロ事件も相次ぎ、バルカン半島周辺国で反難民・移民を掲げる政党が選挙で躍進するなど大衆迎合主義（ポピュリズム）の嵐が吹き荒れた。こうした動きは、英国のEU離脱や米国でのトランプ大統領誕生にもつながった。

これらに共通する因子はSNSである。アラブの春のデモ隊はSNSで連絡を取り合った。イスラム国などのテロリストもSNSに犯行声明を投稿し、ポピュリスト政治家の代表とも言えるトランプ氏は注ツイッターで時に暴言や妄言を流した。欧州に押し寄せた難民たちの手にもスマホがあった。

この十年紀の起点である2010年は、米国などで「100年に一度のメディア革命」が叫ばれ、音楽、書籍、テレビなどがデジタル化や配信型にビジネスモデルを一気に転換した時期でもあった。このメディア環境の変化が世界へと波及し、SNSデモやSNSテロリスト、SNS政治家を生み出し、一つの時代の形を作ったのである。

（笹沢教一）『コロナとWHO 感染症対策の「司令塔」は機能したか』集英社

（注） ツイート——ツイッター（現X）というSNSで投稿された短い文、または投稿する行為のこと。

- ① メディア環境の変化が、SNS上で大衆を抑圧する活動を可能にし、SNS上の言説により社会が危うくなる時代。
- ② メディア環境の変化が、SNSの政治的影響力が及ぶ範囲を大幅に広げ、SNS上の言説が社会を動かしていく時代。
- ③ メディア環境の変化が、SNS上の自由な言論を活発化し、SNS上の言説が社会の平等化を推し進めていく時代。
- ④ メディア環境の変化が、SNSを通じた大衆の言論活動を活性化し、既存の権威が陳腐化していく時代。
- ⑤ メディア環境の変化が、SNSで政治の矛盾をあらわにし、世界的な格差解消のために暴力的手段が選択される時代。

〔国語 終わり〕